

令和6年度第3回小牧市青年の家運営委員会議事要旨

【日時】 令和7年2月19日（水）午前10時～10時40分

【会場】 小牧市青年の家講義室

【出席者】 富嶋委員長、林委員、橋本委員、丹羽委員、関委員、舩橋（鐸）委員

【事務局】 川尻こども未来部長、野田こども未来部次長、小川課長、若林係長、上條
（こまき市民文化財団）坂本チーフマネージャー、堀田

【傍聴者】 なし

【議題】

- （1） 令和6年度小牧市青年の家利用状況経過報告について
- （2） 令和6年度小牧市青年の家事業経過報告について
- （3） 令和7年度小牧市青年の家事業計画（案）について

【報告】

- （1） 青年の家の今後について

【会議内容】

1 あいさつ

（川尻部長）

日頃は、青少年健全育成に格別のご協力をいただきありがとうございます。

前回の会議でもご説明させていただきましたが、青年の家は令和7年度末をもって廃止する方向で事務を進めています。来年度が最後の事業年度になるので、事業計画や青年の家廃止後の事務の継続方法などについて、忌憚のないご意見をお願いします。

（富嶋委員長）

日頃は、青少年の健全育成のために様々な活動を行っていただき、ありがとうございます。

令和8年3月で施設が閉館予定ということで、来年度が最後の1年になります。今回は本年度最後の会議になり、来年度の事業について議題になっています。委員の皆様には活発なご意見をお願いします。

2 議題

- （1） 令和6年度小牧市青年の家利用状況経過報告について

資料に基づいて説明

（関委員）

令和4年度の宿泊数はコロナウイルスの影響だと思うが、所感としてコロナ禍前と比べて宿泊件数は変わっているか。

（事務局）

宿泊だけでなくトータルの利用者数になるが、令和5年度は約1万8,000人が利用しており、コロナ禍前で多かったときは平成23年の約2万8,000人だった。コロナ禍以降盛り返してはきているが、以前と比べると少ない。

（丹羽委員）

和室の利用者数が増えている理由が分かれば教えてほしい。

(事務局)

宿泊件数が若干増えたので、それに伴って部屋の利用者数も増加していると思われる。また、公民館が工事のため休館していた影響で、日ごろそちらを使っていた方が青年の家を利用していたためかと思う。

(2) 小牧市青年の家事業経過報告について

資料に基づいて説明

(橋本委員)

寺子屋については、多くの子どもが参加している。青年の家が閉館になった後はどうする予定か。

(事務局)

寺子屋に限らず、現在青年の家で実施している講座については、こども未来館、児童館でも似た事業を行っているため、それらを整理したうえで、継続、統合について検討していきたい。

(関委員)

自然体験は青年の家ならではの講座かと思う。申し込みしてくる子はどのあたりに住んでいる子が多いか。

(事務局)

自然体験の講座に限らず、施設近辺の子が多い。東部地区の子からも申し込みはあるが、かなり少ない。

(関委員)

ワクティブこまきで子ども向けに実施すると、中心市街地の子たちの参加はあるが、なかなか東部の子たちの参加がない。

自然の中で遊ぶ楽しさを通して学ぶことは、子どもたちにとって非常に良い経験になるので、子どもたちが様々な体験ができるように、市内の色々な場所でこういった活動ができたらと思う。

(3) 令和7年度小牧市青年の家事業計画（案）について

資料に基づいて説明

(丹羽委員)

最後の年になるので、広報等ご協力できることがあれば言っていただければと思う。

(橋本委員)

各講座の講師には、7年度が最後の開催になるという案内はしているか。これまでご協力いただいたので、丁寧にお礼をしていただければと思う。

(富嶋委員長)

閉館に伴うフィナーレのようなものは計画されているか。

(事務局)

建物はなくなるが事業は続いていくので、現時点では考えていない。

(富嶋委員長)

市民の方がどれだけ閉館のことを知っているのか分からないが、青年の家の講座は他に引き継がれていくということを周知していったほしい。

3 報告

(1) 青年の家の今後について

(事務局)

前回の会議において施設の現状や課題について説明させていただき、様々なご意見をいただいたところではあるが、令和8年3月での閉館を前提に事務を進めていく方針について、皆様の同意をいただいた。

また、令和6年第4回定例会において、青年の家の今後の運営に関する一般質問が出され、施設の利用状況、劣化状況、本委員会でもいただいたご意見を踏まえて、令和8年3月末をもって廃止する方向で今後事務を進めていく旨を回答しました。

今後の大まかな流れについては、青年の家の利用団体へ周知し、代替施設の提案や施設利用の調整などについて利用団体の意向を確認していきます。

青年の家事業として実施している各種講座については、こども未来館や児童館、ワクティブこまきなどの類似する講座等を整理したうえで、代替事業への移行や他の公共施設にて開催することにより、引き続き青年の健全な育成を図っていきたいと考えています。

なお、施設の閉館に合わせ、本委員会についても来年度をもって廃止する予定をしています。

(関委員)

青年の家が閉館した後、このスペースはどう活用されるか。

(事務局)

山全体が国の史跡に該当しているため、新たに建物を建てることはできない。整備の計画については教育委員会の管轄になり、今後創垂館へのアプローチにするのかも含め検討すると聞いている。

(船橋委員)

ジュニアセミナーのアウトドア料理については、他施設にある料理教室でやれないことはないが、やはり屋外で料理するというのが目的の1つなので、閉館後にどこでやるかを考えている。

また、5月に実施する小牧山親子ラリーについては、今年で21年目になる。2時間ぐらいのコースをまわってもらったあと、青年の家で簡単なおやつなどを親子で一緒に作って食べてもらっている。青年の家がなくなった後は、今でも時々使わせてもらうが、ふれあいセンターの料理室を使わせてもらうとか、バーベキューコンロを使うとか、その他、青年の家の跡地に水道の蛇口や手洗い場を作っていただくなど、別の方法はないかと思う。長年継続してきたので、なんとか場所を確保して続けたい。

(事務局)

今までのような形での実施はできなくなるが、ボーイスカウトのご意向も確認しながら、できる限り庁内で調整、協議していきたいと思っている。

(橋本委員)

アイトワについては、もし青年の家がなくなった場合、どうなる予定をしているか。

ここは自然の中で環境が良い。不登校生徒の中には、市民センターや学校の空き教室で行うなら行かなくなる子もいるのでは。

(事務局)

教育委員会からは公民館に移設される予定と聞いている。

教育委員会としても不登校児童が増えていることを大きな問題と捉えており、子どもたちが引きこもることなく、外で社会的な関わりを持つということ重要かと思う。

国としても、子どもの居場所づくりを重要視している。市も今年度こども計画の策定を進める中で、身近にある児童館なども含め、安心して子どもたちが過ごせるような居場所づくりを行っていききたい。

(橋本委員)

一つの提案として、公民館などではなく、農業公園や四季の森など自然の中でやるのはどうか。

(富嶋委員長)

児童生徒の受け入れ先としては味岡地区にカルミアもあるが、東部の子どもたちが来づらいので、そちらの方面に自然とタイアップした施設があるのはいいと思う。

また、先日校長会にこども未来部の方がお見えになり、居場所として児童館もあるよということを宣伝してほしいとお願いがあった。子どもたちは、自分は学校に行っていないので、出歩かずに家にずっといなくてはいけない、という引け目があったりして、児童館だったら行けるのにと思っている、行けない子がいるのも事実。児童館側からも、日中の受け入れや児童館の開館時間を夜まで延長して、中高生の夜間受付体制も段々と整えていただいている。様々な方向から生徒への対策をしていただき、ありがたいと思っている。

(橋本委員)

建物の上を見ると、北側の木の枝が切られて、屋根にかかっていなかった。あれだけ切ったのにあと1年で使えなくなるのはもったいないと感じる。相当金額もかかったのでは。

(事務局)

昨年度から小牧山課に依頼していたもので今年度実施した。枝が覆いかぶさり枯れ葉が多く落ちてきて、施設管理に影響が出ていたことへの応急処置であり、倒木の危険性自体は残っている。

4 その他

(事務局)

次回、令和7年度第1回の運営委員会を7月頃予定しています。日程や議事内容等の詳細は、改めてお知らせします。

以上をもちまして、令和6年度第3回小牧市青年の家運営委員会を閉会します。